

氏 名：松永 真由美  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第 222 号  
学位授与年月日：2022 年 3 月 10 日  
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当  
論文審査委員：主査 大田 えりか（聖路加国際大学教授）  
副査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）  
副査 百枝 幹夫（聖路加国際病院女性総合診療部部長）  
副査 堀内 成子（聖路加国際大学特命教授）

論文題目： Development and Evaluation of E-learning for Health Professionals toward Introduction of Integrated Clinical Care Pathway for Women with Gestational Diabetes : A mixed methods study

#### 博士論文審査結果

妊娠糖尿病妊婦に対するケアは、助産師や産婦人科医のみならず、内科医、栄養士など多職種連携が必要である。本研究の目的は、この多職種連携を円滑に進めるため、妊娠糖尿病妊婦に対する多職種連携・継続支援のためのクリニカルパス導入に向けた医療者向けの E-learning プログラムを開発し、評価を行うことであった。研究方法は、収斂デザイン混合研究法を用いて、オンライン調査（量的データ）と半構造化インタビュー（質的データ）を実施した。

オンライン調査には、40 名の助産師・看護師と、37 名のそのほかの医療者の合計 77 名が参加した。半構造化インタビューは、19 名の参加者に実施した。E-learning の効果として、妊娠糖尿病（GDM）の知識、多職種連携、クリニカルパスに関する平均正答率が 47.4% から 82.4% に増加した。現在の GDM サポートの改善の必要性の認識の向上と、クリニカルパスの利用意向が有意に高くなった。クリニカルパスの実施可能性としては、継続フォローアップのための連携の難しさ、時間と資源の不足、看護職の知識、技術、自信の欠如などいくつかの障壁が明らかになった。

審査においては主に以下の指摘があった。

- 1.日本では GDM の診断方法が 2015 年に変更になり、GDM と診断される人が 4 倍に増えていることを、背景の literature review に記載すること。
- 2.同じ介入をして、看護職と多職種を分けて分析した理由を加筆すること。
3. 結果において、知識得点が低下している理由、および事後テストで自信に関する点数が低下している理由を考察に加筆すること。
4. 考察に、看護職が多職種連携のキーになること、それには今後どのような取り組みが必要かを加筆すること。
5. 次のステップや院外連携の可能性、包括的なポストコンセプションなど今後の研究への示唆も加筆すること。

これらについて、適切に修正されたことがすべての審査員から確認された。本研究の独創性は、多職種連携のクリニカルパス導入にむけた医療者向けの E-learning プログラム開発は、いままでにない初めての取り組みであり、その効果と障壁を混合研究方法により明らかにした点である。本研究は、予備研究を積み上げたうえで丁寧に実施し、英文で執筆した点は、全審査員から博士論文として高く評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。